

韓統連大阪通信紙

自主

チヤジユ

352号

2020年6月号

자주

発行 在日韓国民主統一連合
(韓統連) 大阪本部

〒544-0034

大阪市生野区桃谷3-13-6

TEL06-6711-6377 FAX06-6711-6378

毎月1日発行 購読料 年間3000円

郵便振替 00940-7-314392

民族時報社 大阪支社

光州40周年を迎えて ～光州はまだ復権していない～

◆未だに、真相が明らかになっていない

1980年5月17日24時。全斗煥ら新軍部は韓国全土に戒厳令を拡大し、クーデターで「ソウルの春」の息の根を止めた。しかし、光州だけが沈黙を拒否したが、軍の弾圧は光州に集中した。空挺部隊により多くの市民が虐殺された。信じられない悲惨な光景にひるむことなく、勇敢な市民は武器を持ち、反撃に出た。「市民軍」を80万光州市民は応援した。食料を提供し、献血のための長い列をつくった。市民の怒りに圧倒された軍は一時撤退したが、光州を封鎖し、孤立させた。「光州は暴徒による危険な無政府状態」。デマ情報を流し続け、5月27日未明再突入。「激戦」の末、光州は陥ちた。

あれから40年の歳月が流れた。

1988年、「光州事件」は「光州民主化運動」となった。光州市民が「暴徒」の汚名を返上するのに8年が費やされた。

1995年、全斗煥と盧泰愚が初めて法廷に立たされた。一審で全斗煥は死刑、盧泰愚は懲役22年6カ月を宣告されたが、最終審では無期懲役と懲役12年に減刑され、その年の12月「特赦」で釈放された。光州民衆虐殺の首謀者を法廷に立たせるのに15年が費やされたが、わずか2年足らずで釈放されてしまった。

2002年、「光州民主有功者礼遇に関する法律」が制定され、1997年に完工した墓地は国立墓地に昇格し、「国立5・18民主墓地」となった。

犠牲者の名誉回復と補償はある程度進展したが、

誰が発砲命令を出したのか、犠牲者はいつ、どこで、どのように殺害されたのか、米国の関与も含めていまだに光州の真相は明らかになっていない。加えて「光州は暴徒の内乱」「北の工作員が潜入」など光州を冒涇する発言が後を絶たない。全斗煥は回顧録で、軍の発砲は市民の銃撃に対する「正当防衛」であり、ヘリコプター射撃の目撃発言をした神父を「破廉恥な嘘つき」と罵倒した。昨年(2019)の12月にはソウルの高級中華料理店で肅軍

クーデター40周年の記念同窓会まで開いている。

加害者は、あつかましく健在ぶりを誇示しているのに、被害者である光州市民は、今なお傷が癒えることなく苦痛の中にある。

◆最後の機会

5月18日。5・18民主広場(旧全羅南道庁前)で開かれた記念式典で文在寅大統領は「真相究明に最善

を尽くす」とし、今年1月に発足した「5・18真相究明調査委員会(真相調査委)への支援を惜しまない」と述べた。真相調査委には強制捜査権がなく、調査の限界が明白だ。今回が最後の機会だ。文大統領は、真相調査委の権限を強化し、任期中に必ず真相究明を実現しなければならない。

ちなみに全斗煥は「反乱首魁罪」「上官殺害罪」などの重罪にもかかわらず、2年で釈放されたが、7年前「内乱陰謀罪」で逮捕された李石基(イ・ソッキ)前国会議員は「内乱陰謀罪」は無罪となったものの、「内乱扇動罪」と「国家保安法違反」で懲役9年を宣告され、今もなお服役中である。韓国の民主主義は、まだまだ道半ばだと言わざるを得ない。(隆)



▲光州民衆抗争40周年を迎え、「虐殺の責任者は誰なのかを明らかにしろ」などを求める韓国民衆

光州民衆抗争40周年記念 在日韓国青年同盟オンライン集会 決議文

今年、光州民衆抗争40周年を記念し、在日韓国青年同盟（韓青）主催で、5月23日（土）にオンライン集会在開催されました。集会では情勢講演・青年たちの決意表明などが行われ、多くの方が集会を視聴しました。今号では、オンライン集会で確認された決議文を紹介します。

思いを共にし、自主・民主・統一運動に邁進する同志に心からの敬意を表すると同時に、コロナ禍で苦しんでおられるすべての人の安寧を祈念します。

肅軍クーデターで実権を握った全斗煥は朴正熙独裁政権の継承者であり、米国の指名を受けた新たな傀儡でした。新軍部が初めに取り組んだことは生まれたばかりのソウルの春の芽を摘み取る事であり、その標的こそが光州でした。光州に投入された戒厳軍は平和的なデモで非常戒厳令に抗議する市民への無差別発砲を行い、おびただしい犠牲を積み上げました。



▲80年5月、全南道庁前に集まった光州市民

光州市民軍は武力でもって鎮圧され、光州民衆抗争は共産主義者の暴動という烙印を押されたまま真実は長い間隠蔽されてきました。

今年、国内では40周年を迎えた光州市民の闘いを厳粛に受け止め、未来への決意を新たにしました。大量虐殺の首謀者であり、犠牲者への侮辱を続ける犯罪者全斗煥に対して処罰を求める声は日に日に高まっています。

光州民衆抗争は6月民主抗争へと続く反独裁民主化闘争の烽火であり、その成果は保守永久執権を粉砕したキャンドル革命へと結実しています。文在寅政権はキャンドル政権である自覚を持ち、

光州民衆抗争の真相究明、責任者処罰を速やかに実行しなければなりません。

海外に住む私たちを在日韓国人青年も光州民衆抗争を目撃し、立ち上がりました。

韓青は光州の真実を一早く日本国内に伝え、でっち上げで逮捕された金大中氏をはじめとする民主人士の即時釈放を求める運動を日本全国で強力に展開しました。軍事独裁の手先となった大使館、維新民団は私たちの運動を口汚く罵り妨害しましたが、私たちは沈黙を余儀なくされた国内の同志の分まで声をあげ闘い抜き、良心的な日本の友人たちの協力も得ながら国際世論で全斗煥政権を包囲しました。当時、光州を契機に多くの在日韓国人青年が目覚め、その成果は6月民主抗争の支持、汎民族大会を成功へと導いた組織力量強化へとつながりました。



▲「光州虐殺を黙殺した米国は5・18英霊に謝罪しろ」と訴える韓国の青年学生たち

光州市民の闘いは今日も在日韓国人青年の心を揺らし、動かし続けています。それは失われた無辜の命に対する敬意と、その闘いが光州精神として40年の時を経て今日の韓国民衆に継承されているからです。光州が残した血の教訓、それは真の解放を勝ち取るためには外勢による支配を終わらせなければならないということです。

しかし、今日においてもなお米国によるわが民族への支配、干渉は続いています。昨年、露骨な

米国による内政干渉、特に韓米防衛費分担金の法外な値上げを迫るトランプ政権の不当で破廉恥な要求に立ち上がり、米大使公邸の柵越えデモを敢行した大学生たちがいました。私たちはそういった国内青年学生の姿に光州精神を感じ、闘いへの決意を新たにします。この40年間、私たちは海を隔てながらも国内青年学生と同じ目線で語り、闘い、統一の夢を共にしてきました。かつて多くの在日韓国人青年の人生を変えた光州精神は、世代を越えて今なお受け継がれています。

今年2020年は、南北の首脳が初めて出会った6・15南北共同宣言から20周年を迎えます。6・15南北共同宣言では分断の歴史で築かれた両国の体制の差異を乗り越え、「わが民族同士」の精神で和解と統一の時代へ進むことを約束しました。



▲2000年6月の南北首脳会談

続く2007年の10・4宣言では、そのための具体的な措置が話し合われ、平和な韓半島を樹立することを合意しました。それらすべてを否定、歪曲し、不信と対立の時代へと逆行させたのが積弊勢力であり、米国は彼らを支援し軍事緊張によって韓国を東アジア戦略の兵站基地としました。李明博・朴槿恵はキャンドル革命によって牢へつなげられましたが、米国は積弊勢力の頭をすげ替えながら南北の自主的な和解、交流を妨害し続けています。今年こそ光州民衆抗争の血の教訓から明らかになったように、米国による支配構造から完全に脱しなければなりません。

私たち韓青は「5月から統一へ」をスローガン

に、光州民衆抗争40周年を継承し自主・民主・統一勢力を強化する事業に取り組んできました。統一への道は板門店宣言がすでに示しているように、「わが民族同士」の精神で進むのみです。そのためにも反米自主化運動は必須の課題です。わが民族の主体性を阻害するあらゆる外勢をはねのけ、私たちの手で統一を掴み取りましょう。

光州民衆抗争40周年に際し、私たちは以下の決意を宣言します。

5
月
か
ら



統
一
へ

1. 光州民衆抗争のすべてを明らかにし、責任者を厳しく処罰せよ！

光州民衆抗争を貶める積弊勢力のあらゆる妄言をこれ以上許容してはならない。特にヘリコプター射撃を指示した人物が誰であったのか、徹底的な調査で明らかにし処罰しなければならない。

2. 光州民衆抗争の血の教訓を活かし「わが民族同士」の精神で祖国統一を実現しよう！

今年20周年を迎える6・15南北共同宣言で示された「わが民族同士」の精神に則って、自主の力で祖国を平和統一させよう。板門店宣言、9月平壤共同宣言でも合意した開城工業団地と金剛山観光を再開し、平和統一時代を実現しよう。

3. 在日韓国人青年は結集し、光州精神を継承する運動の先頭に立とう！

分断は私たちの意思によってではなく、対立は私たちが望むものではない。在日韓国人青年は自主・民主・統一の旗の下に結集し、板門店宣言、9月平壤共同宣言を共に支持しよう。

2020年5月23日

光州民衆抗争40周年記念 オンライン集会
在日韓国人青年同盟

トランプ米大統領、駐韓米軍防衛分担金50億ドル要求

李 鐵(イ・チョル)

社説「とんでもないトランプの防衛費分担金増額要求」。ハンギョレ新聞2018年12月11日付の見出しだ。内容は「韓国が駐韓米軍駐留のために負担した防衛費の分担金は9602億ウォンだが、さらに1兆4400億～1兆9200億ウォン(約1400億円～1900億円)を要求。あまりにも行き過ぎた要求である」と報じたが、2019年は何とその5倍、50億ドルを要求している。なんと5倍に増えたことになる。なぜこうなったのか背景を探る。

もともと韓国駐留米軍の費用は米軍が負担することになっていた(SOFA第5条)が、1991年(盧泰愚大統領時代)米国の財政悪化(双子の赤字)で一部を韓国が負担することになったのが韓米防衛分担金特別協定だ。主に米軍基地で働く韓国人労働者の人件

費、軍施設費及び軍需支援費などだった。分担金は国会の承認案件で1991年から2018年まで計10回にわたって協定が結ばれたが、1991年1073億ウォンから始まり2018年1兆ウォン近くまで、およそ10倍近く膨らんできた。しかも米軍側は分担金の一部、7000億ウォンを積み立てて保有しており、増額の理由に合わないとの意見も多い。2018年に限って単年度の協定になっており、今年(2019年)は2019年の5倍を要求している状況だ。

新型コロナウイルス禍でマイナス成長が予想される中、給付金支給や経済立て直しに予算が必要な時期、文在寅政権の対トランプ対策に注目が集まっている。

文政権の2020年度国家予算案は513兆ウォンで、うち国防費は50兆ウォンだ。国防費に

限っていえば3年で10兆ウォンも増えた。これにトランプ大統領が求める分担金5兆ウォンを足すと防衛関連予算だけで55兆ウォンになり、予算案のおよそ1/10となる。これでは国民は納得しないだろう。米軍は分担金交渉の遅延を理由に基地で働く韓国人を無給休職扱いにして、基地内に入るのを許さない行動に出た。文政権への圧力の表れで、韓国社会はトランプ大統領の分担金増額要求を容認しない声大きい。第11次分担金交渉が昨年(2019年)から続いており、韓国側は無理な要

求だとして妥当な線での合意を目指しているが、米国側の交渉態度は一貫して5倍の増額に固執している。再選を目指すトランプ大統領は「アメリカン・ファースト」を貫く姿勢を有権者に訴えることに集中しているように見える。

分担金交渉の行方によ

っては、韓国軍の指揮権返還時期や駐韓米軍の性格(韓国の防衛から域外作戦基地化)、さらには駐韓米軍削減もしくは撤退にまで幅広い分野に広がり、朝鮮半島情勢にも大きな影響を及ぼす可能性のある問題になっている。

韓国市民はキャンドル革命とコロナ禍の中、高い投票率で総選挙を成功させたことで自信を強めている。今すぐ米軍の撤退を求めることはないが、韓国の未来像を自らの手で描くことを強く望んでいるし、それが可能だと信じている。民意を無視するトップリーダを躊躇なく変える成熟した民主主義社会から「人権先進国」へと向かう韓国社会に米軍は重荷になっている。

分担金だけの問題でなく、公正・公平で透明な行政と社会を作る上でも、米軍は邪魔な存在になりつつある。



▲「駐韓米軍防衛費分担金引き上げ要求を糾弾する」と主張する韓国市民社会団体代表

【投稿】

コロナあれこれ日々思うこと

金優子 (私・ウヅヤ)

●家計編

2ヶ月前のある日、ナムピョン(夫)から「コロナの影響で仕事が入ってこなくなり、来週から当分午前中のみの勤務になるから・・・」と言われました。年明け早々定時の5時から3時へと時短勤務になり、やり繰りがしんどいのに、それに輪をかけて午前中のみの勤務!!公共料金も含めて月末の支払いができるのか?生活できるのか?飢え死にするんちゃうか?とか、言い知れぬ恐怖と怒りが交差しました。以下、私とナムピョンの会話です。

(私)「アンタ、このままやったら生活でけへんやん。どうすんのん」。

(夫)「どうしようもでけへんやん。俺にどないせいいうねん」。

(私)「あんなあ、この家の“長”は誰やねん?!

私か?アンタやろッ!何を無責任なこと言うてんねん!

私が“ナントカする”と思ったら大間違いやで」。

・・・リアルすぎますか?

私も貯金もしたいので短期のアルバイトを探そうと求人広告に目を通しているのですが、実際面接のために電話をかけると「コロナのために仕事が激減しているので、今は募集していない」という答えばかり。「それやったら、はじめから求人募集するなよ」と文句も言いたくなります。

先月ネットで「新型コロナウイルス関連労働相談報告」というタイトルで記事が掲載されていました。コロナを理由に会社からの一方的な解雇通告、賃金補償、内定取り消し、退職強要など、とても他人事とは思えず、身につまされます。先の見えない不安、いつまで続くのでしょうか?

●自粛警察編

見えないコロナより、見える人間の方が怖い世の中になったと感じる今日この頃。ある日、



▲日本政府による新型コロナウイルス対策は不十分で労働者の生活は厳しさを増しています

急ぎの用事を済まそうと目的地に向かっている途中、70代前半の男性に呼び止められ「ねえちゃん、どこ行くのん?なんでマスクしてないのん?ねえちゃんテレビ見てないんか?“お国”から自粛するよう言われてんのに、不要不急の外出はアカンやろ」。モノの言い方は柔らかでしたが、目が完全に「イッテル」感じでした。「このオッチャン、自粛警察か?よっぽど暇を持て余してるのか?」「お国」いったい、何時代なんでしょうかね。

人・飲食業界・その他の業界に対して「自粛しろ、ステイホーム、休業」を叫んでる人たち

は、よほど収入に余裕がある人なんですか?働かないと食べていけない人のことは眼中になく、「死ね」と言うてるようなもんです。

●マスク 呼吸困難?編

その日は夏日で汗ばむ陽気だったのを憶えています。買い物で済ませ帰る途中、なぜか身体がほてっていたのです

が、気にもとめずに自転車を走らせていました。そのうち汗が止まらず頭がボーッと、急に息苦しく呼吸ができなくなったので慌てて自転車を止めてマスクを外し、九死に一生を得ました。

●給付金編

1回こっきは焼け石に水です。コロナが終息するまで、一人あたり毎月10万円を給付しろ!休業補償をしろ!

●私のコロナ対策

- 手洗い・うがいの励行。
- バランスよく食べる。
- 早寝・早起き
- 適度に身体を動かす。
- よく笑う。
- 気持ちを切り替える。

【DVD紹介】

国家が破産する日

新型コロナウイルス感染拡大防止のために安倍首相が出した緊急事態宣言が、ようやく全国で解除されました。各マスコミは緊急事態宣言解除後の「新しい生活様式」について詳しく報道・解説する一方、コロナ禍で低迷した経済状況について報道しています。

今回紹介する映画は、韓国で1997年に実際に起きた通貨危機（IMF危機）を題材にした映画です。

物語の冒頭、朴正熙独裁政権時代の「漢江の奇跡」から1990年代までの韓国経済の発展が紹介されます。韓国は1996年にOECD（経済協力開発機構）に加盟して、先進国の仲間入りを果たしました。

ところが97年、米国の投資家たちは韓国から手を引きはじめます。主人公の一人（主人公は他2名）、韓国銀行の職員であるシヒョンは、通貨危機の恐れがあることを政府官僚に報告しますが、政府の対応は遅れます。

一方、ノンバンクの職員ジュンハクは、通貨危

機を利用して一攫千金を企み会社を辞め、自ら会社を興します。そして町工場を経営するガプスは、大手百貨店からの大量発注を手形決済という条件で受けます。



シヒョンは迫る通貨危機を防ごうと政府官僚に進言するとともに行動を起こし、ジュンハクはウォンが暴落することを予測してドルを大量に買いあさり、ガプスは百貨店が倒産して手形が不渡りになってしまうという展開へと進んでいきます。

やがて韓国政府は危機を乗り切るためにIMFに協力を依頼、非公開協議が始まります。シヒョンは協議メンバーの一員として参加しますが、IMF

側の条件は韓国側にはとても厳しい条件でした。果たして3名の末路は？

IMF危機以降、韓国社会は非正規労働者が増え、貧富の格差が広がるなど厳しい社会状況になりましたが、韓国の民衆は一步、一步、より良い社会の実現に向け前進しています。（ソン）

◆◆行事案内◆◆

とめよう！戦争への道 めざそう！アジアの平和 2020関西のつどい

日 時：7月12日（日）午後2時30分 開場・午後3時 開会
場 所：ヴィアーレ大阪（大阪メトロ御堂筋線本町駅3番出口から徒歩2分）
内 容：講演「民主主義を守るために－安倍政権とメディア」
講師：望月衣塑子さん（東京新聞社会部記者）
資料代：500円（中高生・介助者は無料） 手話通訳あり
主 催：とめよう！戦争への道 めざそう！アジアの平和

2020関西のつどい実行委員会 他

TEL 06-6364-0123（中北法律事務所気付）

編集後記

光州民衆抗争40周年。本来なら韓国で開かれた40周年事業に参加し、今号で報告記事を掲載するはずでしたが、コロナの影響で残念な結果になりました。6月からは日常生活も正常に戻り、コロナに負けず、頑張っていきたいと思います。（ソン）